



# あゆみ

No. 164

令和 4年 1月17日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 茶山寮・第二茶山寮  
 〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680  
 TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090  
 E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp  
 社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>  
 施設の旬の話題を「レイザンTOPIX」にて更新中です。



## 新年のご挨拶を申し上げます



### 「年頭所感」

施設長 鮑田 一夫

令和四年の初日は美しいものでした。元旦から晴れ渡った空は吉兆ではないかと思つたのですが、残念なことにオミクロン株の拡散で新型コロナウイルスの罹患者はうなぎ登りです。弱毒化しているとは言われますが、患者数が増えれば医療現場の逼迫や、医療従事者やエッセンシャルワーカーの不足による社会の機能不全が予測されます。所謂コロナ禍はまだまだ続きそうです。もう一度気合いを入れ直して支援に当たらなければならぬと感じます。

どんな仕事でも常に課題があるものです。一つ課題を解決してもまた次の課題が表れる、それが普通だと思います。よどむ水は腐ると言われます。流れる水のように、常に変化し続けることが仕事のレベルを維持する、または挙げていくことです。

新型コロナウイルスは、私達に新たな課題を突きつけました。罹患者が出たときの対応、ゾーニング、新たな勤務体制の構築等、今までと違う支援の仕方を一

から作り出すという作業は実際大変でしたが、訓練を繰り返すうちに知らず知らずBCP訓練になっていることに気が付きました。コロナという厄災から多くのことを学ぶことができたわけです。また、茶山寮では利用者の高齢化や重度化が進み医療的ケアの必要な利用者さんも増えてきました。留置カテーテルやインシュリン注射の補助などは今まででもしてきましたが、経管栄養や喀痰吸引が必要な利用者さんが出てきたことで、これまでの施設の方針を変え、それらの医療的ケアができる態勢を整えることにしました。そのための研修への参加、器具類の準備、実地研修を当施設ですするための看護師の指導者資格の取得等かなりの準備が必要でしたが、あと少しで実施に漕ぎ着けられそうです。これを機に職員のスキルは大きく向上するでしょうし、利用者さんのニーズに対応する幅も広がってきます。

令和四年もまた新たな課題が生じてくることでしょう。そのたびに皆で智恵と労力を出し合いながら解決していきたいと考えています。

## サービスの現場より

『良い環境は、利用者が作られる』

支援課長 島内 寧



沢山の利用者の方がおられる当施設では、利用者の個性や特性を活かしたお手伝いをしてもらっています。ある方は字が読めるので歯ブラシの準備をしてくださいます。ある方は掃除機をかけてくれます。世話好きな方は寝具交換のお手伝いを見ることが、少しずつですが、他の利用者の方も、他者の為に自分が出来る事をしてくれるようになれました。足が不自由な方が座ろうとした時に手を添えてくれる方、歩行の時に手を繋いでくれる方。何気ない光景ですが、とても暖かく職員が優しい気持ちになります。お手伝いをしてくれる方が外出されている時に、私達は「あっそうか、今はいいんだ」と存在の大きさに改めて気付かされるのです。と同時にいつも有難うと感謝の言葉が出てきます。何気ない事ですが、人を思いやる方法は沢山あり、そしてそれを行動に移す事が大切である事を多くの利用者の方に教えてもらっている事に改めて気付かされています。これからは有難うを言える環境を利用者の方と一緒に作って行こうと考えています。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 若山 慎



現在二名の利用者さんを担当させて頂いており、その中の生活の一コマをご紹介します。Tさん、Kさん共に御家族想いの優しい方々で、兩名とも面会や外出・外泊を楽しみとされています。二〇二〇年全世界にコロナが流行し、当施設でも面会制限が掛かりました。利用者全体、Tさん、Kさん兩名にもストレスの掛かる時期だったと思います。そんな中、Tさん、Kさん共に御家族からの依頼がありました。Tさんについては「月に二回程テレビ電話での面会ができませんか」Kさんについては「部屋で過ごす機会も増えるので部屋を快適に出来たら」でした。制限を掛けていることでストレスに直面するのは利用者さんであり、何かストレスを緩和出来ないかと考えていた時にとでもありがたいた提案でした。それから現在までTさんについては毎月二回リモートでの面会、Kさんは大好きなコーヒーマシンが毎日自分で作れるように機材を設置、ユタツやソファも設置し快適空間を目指して試行錯誤している最中です。兩名とも御家族からの提案で、もしかしたら一人では考えつかない事だったかもしれないかもしれません。利用者さんを想う視点はいろんな角度から見ることで様々見えてくるのだと、この時期だったからこそ学ぶことが出来たのかもしれません。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 橋本 定



私は支援計画を立てる前に、利用者さんの背景を把握できるようにして以前からの記録を確認するようにしています。皆さん性格や考え方が、思っている病気が違っているため、個人に合わせた支援をするには、とても大切な事だと考えています。担当しているYさんは、優しい性格で、職員の手伝いもしてくださいます。畑仕事が好きで、以前実習地でスイカ等を作っていた事を楽しく話してくれます。野菜にも詳しく「白菜は目が出るまでは新聞紙の上にかけておけばよかつやんな」と野菜を見て生き生きとした表情で教えてくださいました。私は野菜を育てた経験が少なく、Yさんから学ぶことが多くあります。十一月にはYさんとラディッシュを植えました。「緊張するな、大きくなるだろうか」と手を震わせながら種を撒いている姿が印象的でした。小さな芽が出てくると「小さかとの出てきたばな」と大喜び。毎日、プランターを日のあたる場所へ移動するなどして、ラディッシュの収穫できる日を待ちにしているように感じました。時々、夜になってもプランターを屋根の下に戻す事を忘れるYさんに声を掛けたり、一緒に間引きしたりと協力して育てました。十二月には大きなラディッシュが十本程育ち「ほら、こがんだ大きくなった。こがんならばダメじゃん」と少し自慢げな顔をしていたYさんでした。利用者さん個人に合わせ、力を引き出せる支援をこれからも考えて行っていきたいと思います。

## 『職場における』

### パワーハラスメント防止対策について』

支援副主任 柴田 玉子



熊本のハラスメントに関する相談で一番多いのが、いじめ・嫌がらせ、次に多いのがセクシャルハラスメントです。職場における優越的な関係を背景とした言動に起因する問題に関し、行う事が望ましい取り組みとして、セクハラ・妊娠・出産・育児休業などに関するハラスメント等と一元的に相談に応じる事の出来る体制の整備です。コミュニケーションの活性化・円滑化のための研修や、適正な業務目標の設定等、職場環境の改善の為の取り組み、アンケート調査や意見交換等を実施することにより雇用管理上の措置の運用状況の的確な把握や必要な見直しの検討に努める等があります。これらの事により、職員が働きやすい環境作りを行い、そのことが利用者の皆さんの幸せに繋がるようにしなければならぬと感じています。

今回の研修に参加させてもらい、パワーハラスメントを予防する為には、パワーハラスメントについての十分な理解・関心を深めていかなければいけないと思いました。また衛生委員会では、パワーハラスメントを起こさない職場環境作りに取り組んでいきたいと思えます。

## 『入職して』

支援員 濱 美穂



私が第二峯山寮に入職して二年が経ち、グループホーム勤務になり早くも一年が経とうとしています。入職してすぐは、初めての事ばかりで戸惑うことが多く、利用者の方々の意思疎通に悩むこともたくさんありましたが、それ以上に利用者の方々の笑顔や、成長を感じる事ができ、やりがいを感じるようになりました。

昨年の四月にグループホーム浜荘がござになり、五月にはグループホームかなでが開設し、それに伴いグループホーム専属勤務となりました。グループホームの利用者の方々とほとんど関わることがなかったので、不安の中また一からのスタートとなりました。

まずは、利用者の方々と信頼関係を築く為、コミュニケーションをたくさんとり、個人個人の特性を知っていききましたが、一人ひとりの対応にどうしたらいいのか戸惑うことが多く、元サビ管に話を聞く等してアドバイスをもらうこともありました。

これからも第二峯山寮で学んだことやアドバイスを生かし、利用者の方々の信頼関係を築き、楽しく、安心して過ごせるグループホームにしていきたいと思えます。

## 『峯山寮に来て三年』

事務員 鮎田 一喜



前職の支援員から事務員に変わると慣れない日々が続き、迷惑をかけたことばかり思い起こされます。ですがそれだけ多く学ぶ機会に恵まれました。支援の現場を離れると、今まで利用者と周囲の関係のみ考えていたことが一変し、施設に関わる外部の人々の多さに驚かされました。そしてその関係を広げるも狭めるもこれからの私自身になります。

さて三年以上経つと、慣れて良いこともあればそうでないこともあります。前述に係ることですが、声の大きさがなくなってきたなと思うところです。感染症を恐れる鬱屈した日々を過ごしているからこそ元気に挨拶し、大きな声で話すことを顧みようと自身に言い聞かせます。又、現場から離れた仕事であることに甘えて、人を待つことが増えてないかと思うこともあります。机に座って書類を書くだけでなく何のためにここにいるか思い直し、気張って頑張っていく所存です。

反省ばかりになりましたが峯山寮らしく明るい一員になることを目指し皆様をお迎えいたします。

# クリスマス会

今年も皆さんが楽しみにされているクリスマス会が開催されました。外部の方をお招きすることは出来ませんでしたが、職員のアイデアでキリスト様とマリア様が登場しての人形劇と「クリスマスの始まり」というお話を鑑賞しました。中でも一番印象的だったのは、サンタさんからプレゼントをもらうときの嬉しそうな表情と、特製ハンバーガーを美味しそうに頬張る姿です。利用者さんと職員が共に笑顔になれる忘れられない一日となりました。



クリスマスプレゼントは何かな！？お腹一杯！！

# 餅つき

12月27日茶山寮・第二茶山寮の利用者さんと職員で合同の餅つきを行いました。餅つきが始まると、皆さん早くつきたい様で、自分の番が来るのを「まだかな？まだかな？」と楽しみにされていました。餅をつく時には「えい！ヨイショー！よし！」の掛け声が響き渡り、職員の合いの手も入り、皆さん楽しそうに参加して下さいました。寒い中でしたが、皆さんの笑顔や、餅つきの様子を見ると流行病になる前の日常に戻れたような感じがし、心が温まりました。



今年もまん丸のお餅♡とっても美味しかったね！！  
お餅を食べられない利用者さんへは  
お餅そっくりのお餅ゼリーやお饅頭を作って提供しました。

## 新成人おめでとうございます

本年は第二荅山寮から一名の利用者さんが成人となりました。誠におめでとうございます。今回はその利用者さんをご紹介します。

### 田村 のぞみさん

のぞみさんは十一月で二〇歳になりました。いつも元気なのぞみさん、アンパンマンが大好きです。支援員や他の利用者さんとキャラクターを指さして「アンパンマン！」と教えてくれます。

七月に第二荅山寮に入所され、半年がたちました。これからも素敵な笑顔を沢山見せて下さい。成人おめでとうございます！



## Challenge to 0

チャレンジ 100では、毎月海岸清掃をしています。十一月は四郎ヶ浜ビーチや島子漁港を予定していましたが、雨で活動できませんでした。昼食は、これまでコロナウイルス対応で弁当等をテイクアウトしていましたが、十一月は緩和されていたので初めて外食をしました。場所は有明町にある「灘や」です。海鮮が有名なお店ですが、荅山寮の方達は悩んだ末にお肉料理を頼まれ、第二荅山寮の方達は海鮮丼など普段施設で食べられない物を注文されています。皆さん「美味しい」と満足そうに完食されています。現在第六波の影響でお店での飲食は制限されていますが、今後も利用者の方が楽しめる活動にしていきたいです。



## 利用者さんの風景

### 島田盛二さん

盛二さんは現在六九歳で、とても笑顔が素敵なお方です。その笑顔に毎日多くの職員が癒やされています。そんな盛二さんも歩行が段々難しくなれば、多くの時間をリクライニング車椅子で過ごすことが多くなりました。天気の良い日には、外気浴を行ったり等することで、気分転換になればと支援をさせて頂いています。盛二さんが特に楽しみにされているのは、入浴の時間です。食事や活動の時も職員を呼び止めては、頭を洗うジェスチャーや入浴後のジュースを飲む仕事をされます。すぐく楽しみにされていることが伝わり、盛二さんにとって充実した時間となるよう支援させて頂こうと、日々感じています。



### 村本政春さん

GHつばさで、生活されている村本さんは、年明け七五歳になりました。年齢を感じさせない体力と積極性を持って、何時も施設の作業に取り組んでおられます。若い頃から色々な職業を経験され、人間の基本は働く事だという意識を強く持ち、体が動く間は働きたいと何時も話しておられます。昔船で働かれた事もあり、大きな船を見に行く事が好きで、見に行く度に船乗り時代の事を懐かしそうに話されます。食べる事も大好きで、若い人達に負けない位の食欲を持っておられます。それも本人の活力に繋がっているのだと思われれます。



## 行事予定

(変更あり次第、ご連絡します)

一月	二月	三月
二日 配置医来寮	二日 配置医来寮	二日 配置医来寮
三日 節分豆まき	三日 ひな祭り交流会	二日 配置医来寮
九日 管内買物	二日 さくららの会	二日 配置医来寮
十五日 レクリエーションの日	二日 花見会	二日 配置医来寮
二十四日 亀川小学校駒打ち体験	二日 花見会	二日 配置医来寮

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染予防のためインターネット等の活用は発達し、その分直接人と会う機会が減り人の繋がりがや絆について思うようになりました。なかなか会えないからこそ、その人のことを考えて「今どうしているかしら」と想いを馳せる。

離れて暮らしておられるご家族の皆様は、いつもそのような想いではないかと思えます。このような状況の中、少しでも利用者の方に笑顔になって頂けるように、そしてご家族の皆様様に安心をして頂けるように、心を込めて仕事をしていきたいと思えます。本年が素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。

